

観音菩薩坐像

無限の慈悲の女神である観音は、様々な姿で描写される。ここでは、白衣観音の姿で現れている。無色の衣と頭飾りから、白衣観音として同定することができる。この像は、仁和寺の他の寺宝と異なり、歴史遺産でも文化財でもなく、1974年という最近の制作である。この像の様式は、観音堂の観音像など、仁和寺にある他の観音像とははっきりと区別することができる。日本と中国の彫刻の伝統は 11 世紀頃から別々の道をたどるようになるが、この像からは、その分裂がそれ以降今日まで続き、2つの全く異なる伝統が生まれていることがはっきりと見てとることができる。とはいうものの、この白衣観音の像には、中国の彫刻の伝統の要素も見られる。それは、像が身につけている装飾品に本物の布を使っている点や、顔料による彩色などである。